

日本全国 あちこち探索(箱根)

プロローグ:「長寿祈願」と「恋愛成就」の旅



箱根湯本駅

箱根山の噴火が活発となり、警戒レベルがレベル3(入山規制)に引き上げられたのは去年(2015年)の6月。その前には御嶽山(2014/9)、口永良部島(2015/5)での噴火があり、その後も桜島(2015/8)、阿蘇山(2015/9)と噴火が続き、次はとうとう富士山かとハラハラ・ドキドキしたものです。

しかしながら、箱根の噴火もレベル1まで引き下げられ、運休していたロープウエーも今年7月には全線運転再開となりました。そこで、バスや海賊船が乗り放題の箱根フリーパスを使い、箱根ぶらり旅でもしようかと思えます。

自宅を出たのが朝8時、NHK BSで7:45から始まる朝ドラを見終わったら、すぐに出発します。箱根フリーパスの料金は新宿発2日間有効がおとな5,140円、これにロマンスカーの特急料金を加えると6,920円になりました。



湯本ハイカラ中華「日清亭」

ロマンスカーが往復で4,160円ですから、箱根湯本で箱根登山鉄道に乗り換え、箱根登山ケーブルカー、箱根箱根ロープウエー、芦ノ湖の海賊船へと乗り次いで、ようやく元がとれる計算です。

このため箱根では、一日中バスを乗り回すぐらいの覚悟がないと、フリーパスの恩恵に与(あずか)ることは出来ません。

ロマンスカーが箱根湯本に到着したら時間はちょうどお昼時、さっそく向かったのは手打ちのラーメンが美味しいと評判の湯本ハイカラ中華「日清亭」です。

箱根登山鉄道の軌道に沿って歩いていくとそのお店はすぐに見つかりました。お店の建物は、まさに大正ロマンを彷彿(ほうふつ)させるハイカラ風、これがハイカラ中華と名乗る所以(ゆえん)だろうと思います。

手打ち醤油ラーメンは昔風のあっさり味、どちらかと言えばラーメン店ではなく中華食堂です。お勧めの一品は「揚げワンタン」で、それに半ラーメンとちまきとデザート
のセットが1,000円です。



「はつ花そば」

箱根湯本で、お蕎麦を食べたい場合は「はつ花そば」。昭和9年の創業で、材料にはこだわりを持っているとのふれこみが宣伝文句になっています。



彫刻の森美術館(ザ・ハコネ・オープンエア・ミュージアム・カフェ)

お腹が一杯になったら、[箱根登山鉄道](#)に乗り込みます。途中には「[彫刻の森美術館](#)」があって、時間に余裕があれば、ぜひとも立ち寄りたところ。お気に入りの彫刻は舟越保武作「道東の四季・春」、いまいち理解出来なくて気になって仕方(しかた)がないのがイギリスの彫刻家アントニー・ゴームリーの「密着」です。

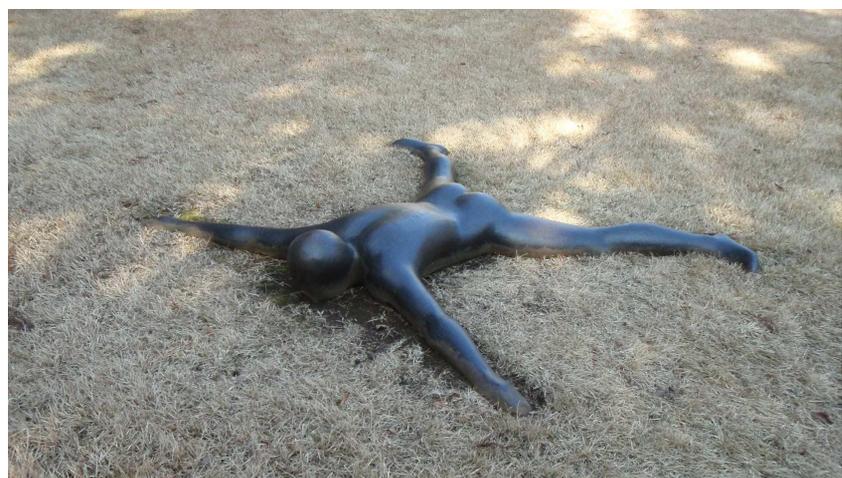
ピカソ館に入ってみれば、これまた理解不能の作品が並びます。しかしながら同じスペイン出身のジョアン・ミロの作品に比べれば、マシな方だろうと思います。確か、サルバドール・ダリもスペインの出身で、いずれもスペインの限りなく原色に近いおおらかな気候が育(はぐ)んだ感性に違いないと勝手に理解してしまいます。

理解不能な芸術に触れて、右脳が疲れた後に休憩するなら[The Hakone Open-Air Museum Cafe](#)(ザ・ハコネ・オープンエア・ミュージアム・カフェ)がお勧めです。食べ物はあまり期待できませんが、大きなガラス越しに外の緑を眺めながら温かい珈琲を頂けば、この上ない開放感に包まれ、体に中のストレスが外部に拡散していくのが分ります。その隣には箱根ならではの足湯もあって、しばし都会の喧騒(けんそう)から逃避(とうひ)することができました。

現代彫刻を満喫した後は、箱根登山鉄道に戻ります。終点は強羅駅、大正時代にフランス様式でつくられた強羅公園があり、箱根フリーパスを持っていれば550円の入場料が無料です。しかしながら今回は寄り道せず、そそくさと[箱根ケーブルカー](#)に乗り継ぎます。



道東の四季(春)



密着



歩く花/水浴びをする女



弓を引くヘラクレス/人とペガサス



神の手



大涌谷

終点の早雲山(そうんざん)駅に着きました。ここは[箱根ロープウェイ](#)への乗り換えが主目的の駅であって、特別な物は何もなさそうです。試しに駅の外に出てみれば、丸い形のトレーラーが止まっていて、そこでカフェを営んでいるようです。お店の名前は「[CAFE Ryusenkei](#)」、Caravel製のトレーラー「AIRSTREAM」にちなんだものと思います。ついついつられて店内に入ってみれば、狭さを感じさせない落ち着いた雰囲気、内装もそうとう拘(こだわ)った作りになっています。

これを牽引するのは電気自動車の日産リーフだそうで、「えっ！そんなに力あったの？」と素直にびっくり。電車を動かすのはモーターで、低速時のトルクが強いことは知っていましたが、電気自動車がトレーラーを背負って伊豆や箱根の山道を軽快に走り廻る姿はとても想像できません。

日産リーフの主要諸元を確認してみれば、最大トルクが256N・m。これは、マツダが世界に誇るSKYACTIV TECHNOLOGYを駆使して開発した1,500ccクリーンディーゼル搭載のデミオXD Touring L Packageに匹敵する力強さです。

おいしいコーヒーで一息ついた後は、ロープウェイに乗り込みます。10月の秋の空は見事に晴れ、箱根山の外輪山越しに雄大な富士山が顔を出していて、これこそ正に絶景です。…となる筈が、今日は生憎(あいにく)の曇り空、見えるのは麓の峰と行きかう[ゴンドラ](#)ばかりです。

まもなくすると[大涌谷](#)に到着です。ここは去年(2015年)の6月の噴火以降、今年(2016年)7月まで入山規制されていた地、荒涼とした大地には白煙が昇り、辺りには硫黄の臭いが立ち込めています。

大涌谷駅を降りて、わき目も振らずに向かうのは玉子茶屋、もちろん名物「[黒たまご](#)」がお目当てです。すぐ横の温泉池では、「蒸し方」と呼ばれる人が黒たまごを作っている筈で、それを見ながら頂くのが最高の醍醐味(だいごみ)です。この黒たまご、一個食べると7年寿命が延びると云われています。

ところで、「卵は一日一個まで」と云い聞かされてきましたが、これはどうやら都市伝説。食べ過ぎはコレステロールの過剰摂取につながると云う説も、どうやら怪しいかぎりであって、その根拠は崩れています。

一目散に[玉子茶屋](#)に向かってみれば、あろうことか先の道は通行止めで、警備の職員が道を塞いでいます。「今日では行けないの？」と聞けば、ここから先はまだ解除されていないのだと云う事でした。「黒たまごと云えば玉子茶屋ですよねえ」とカマを掛ければ、「そうなんですが…。」とあっさり認めるも、かといって通してくれる訳ではありません。